

Library and Information Science

投稿規程

(2020年6月11日改訂)

1. 個人会員は投稿できる。共著の場合、少なくとも著者の一人は個人会員でなければならない。
 2. 投稿原稿は、原著論文、展望論文の2種類とし、未刊行の原稿に限る。
 - ・原著論文 (original article) は、オリジナルな研究成果を完成した形で公表するもので、研究の背景に関する説明や、研究成果の意義について熟慮した考察を含むものとする。
 - ・展望論文 (review article) は、特定の領域・テーマに関する文献を網羅的に概観し (目安として100件程度もしくはそれ以上)、最新の研究動向を一定の観点から整理したものである。原稿の長さについては、論文執筆要綱の1.に従う。原稿は随時受け付けている。
 3. 投稿原稿には以下のものを含めることとする。
 - a) 標題紙, b) 要旨 (和・英), c) 目次, d) 本文, e) 注・引用文献, f) 図・表, g) 付録それぞれの記載方法は論文執筆要綱を参考にすること。
 - ・MS Word ファイルを送付すること。他のファイル形式の使用を希望するときには、事前に了解を得ること。上記 a) ~g) をまとめて一つのファイルにするか、もしくは f) 図・表と g) 付録をまとめたものとそれ以外の計二つのファイルにするか、いずれかを選択して投稿すること。
 - ・当学会誌ウェブサイトに掲載されている「投稿にあたってのチェックリスト」に記入して併せて送付すること。
 4. 投稿は原則としてメールでのみ受け付ける。

Library and Information Science 事務局
メールアドレス: lis-edit@ml.keio.jp

 - ・容量オーバーなどの理由でメールで送れない場合は電子媒体を以下に郵送すること。投稿した旨を併せて上記メールアドレスにも連絡すること。送付先: 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻内
Library and Information Science 事務局
- なお、投稿原稿は返却しない。
5. 投稿論文の掲載は、査読者2名の査読結果に基づき、編集委員会が決定する。投稿原稿が事務局に到着した日を受付日とし、編集委員会で掲載を許諾した日を受理日とする。査読結果によっては修正原稿を求める場合がある。修正原稿の書式は最初の投稿と同様に上記規定3に従う。
 6. 掲載決定後に最終稿を事務局宛に提出する場合には、メールでのファイル送付に加えて、プリントアウト3部を事務局宛に郵送すること (送付先は規定4参照)。
 7. 掲載された論文の著作権は著者が引き続き保有する。著者は論文出版に関する取り決めを三田図書館・情報学会と結ぶ。

論文執筆要綱

(2020年6月11日改訂)

1. 原稿書式

- a) A4判，横書きとする。
- b) 横40字，縦40行とする。本文等の文字の大きさは10.5pt以上とし，余白は上下左右3cmとること。
- c) 原稿は，本文，注・引用文献，図・表，付録を合わせて，25枚以内とする。
- d) 図・表，付録は，適宜，間を詰めて1枚に複数件を記載することができる。ただし，順序は図・表の番号順とし，入れ替えないこと。

2. 原稿の構成

原稿は，a) 標題紙，b) 要旨（和・英），c) 目次，d) 本文，e) 注・引用文献，f) 図・表，g) 付録からなるものとする。a) 標題紙から e) 注・引用文献までは，必ず含めること。

a) **標題紙** 1枚の用紙に，以下の7項目を記載する。

- (1) 投稿論文種別（和）：「原著論文」または「展望論文」
- (2) 標題（和・英）
- (3) 執筆者名（和・英）：共著者全員の氏名
- (4) 所属機関（和・英）：共著者全員の所属機関
- (5) 住所（和・英）：筆頭著者の住所
- (6) メールアドレス：共著者全員のメールアドレス
- (7) ORCID iD：ORCID iDをもつ者のID

上記(1)～(7)の情報は雑誌にそのまま記載される。(5)に関して記載を望まない場合は，「記載不可」と明記すること。

b) **要旨** 当該論文の要旨を【目的】【方法】【結果】(Purpose, Methods, Results)に分けて，和文は総文字数800字以内，英文は250 words以内で記述する。ただし，展望論文の場合は【目的】だけでもよい。英文と和文で内容が異ならないように留意すること。英文はネイティブチェックを済ませていること。

c) **目次** 本文の章・節名のリストを作成する。

d) **本文** 章，節，項などのたて方は，次の順序によることを原則とする。なお，章の見出しはページの中央に，節以下は左づめとする。

I. …………… 章（前後1行をあける）

A. …………… 節（前1行をあける）

1. …………… 項（前1行をあける）

a. …………… 目

e) **注・引用文献** 一括して，本文の後に注・引用番号の順に列挙する。なお，「注」の付与は最小限にとどめること。

f) **図・表** 注・引用文献の後にページを改めて，まとめて記載する。

g) **付録** 本文では記載できなかった図表等を補足資料として付けることができる。また，論文の根拠となるデータを，データアーカイブで公開し，そのURL等の参照先情報を記載することを推奨する。

に準拠する。

(6) 以下に代表的な場合を例示する。より詳しい例示に関しては、当学会誌ウェブサイトの「引用文献記載例」を参照すること。

例：

[雑誌論文]

- 1) 谷口祥一. 総合目録データに対する機械的書誌同定と著作同定の試み：ゆにかねっとレコードによる実験. 日本図書館情報学会誌. 2011, vol. 57, no. 4, p. 124–140.
- 2) Sakai, Y; Kunimoto, C; Kurata, K. Health information seekers in Japan: A snapshot of needs, behavior and recognition in 2008. Journal of the Medical Library Association. 2012, vol. 100, no. 3, p. 205–213.

[単行書]

- 3) Vickery, Brian C. 歴史のなかの科学コミュニケーション. 村主朋英訳. 勁草書房, 2002, 268p.

[論文集中の論文]

- 4) Kishida, K. “Methods for cross-language information retrieval”. Bilinguals: Cognition, Education and Language Processing. Caldwell, E. F., ed. Nova Science Publishers, 2010, p. 243–286.